

第61回 新潟県中越教育美術展 審査員

東京造形大学

教授 山田 猛



第61回中越教育美術展の開催、誠におめでとうございます。

昨年度に引き続き、子どもたちの思いのこもった作品の数々や、図工・美術教育に高い情熱を注ぎ続けてこられている先生方やサポートされているボランティアの方々にお会いできることに喜びを感じます。人間に例えれば干支が一巡し、生まれた年に還る「還暦」が昨年度であったとすると、今年度は生まれ変わって新たな人生の一步を踏み出した年になるかと思います。長年に渡る関係者の皆様の絶え間ないご努力に敬意を表するとともに、それによって育まれてきた子どもたちの心や表現への思い、新たな時代を担う彼らの新鮮な眼差しから見いだされた世界観が、数々の作品に溢れているように感じられました。

昨年度に引き続き、小学校5、6年生と中学1～3年生の作品を拝見させていただきましたが、子どもたちの思いのあふれた作品との出会いは大きな喜びや楽しみでありながら、審査させていただく責任の重さを感じ、いつもながらかなりの緊張感が伴います。作者の日常の生活や制作過程などを知らないまま、作品のみからそれを描くに至った思いやその語りを受け止められるように努め、じっくりと拝見させていただきました。

多くの作品から、何気ない日常や学校生活の中に作者が見いだした大切な瞬間や思いが画面いっぱいにあふれでていて、そこにヒト・コト・モノとの繋がりドラマの一場面が感じられ、鑑賞者としての胸が揺さぶられます。地域社会と深くつながっているからこそ生まれてくる日々の暮らしや人々との交流、お祭り等の民俗文化、描くために日常の環境を「見直して観る」ことから初めて気づく風景との新鮮な出会い。校外学習や宿泊学習、家族旅行等、旅先で体